

綜警センタービル (村田ビル)

東京都杉並区高円寺

1994

首都圏の警備情報全般の指令センター



建物全景



ガードセンター

この建物は、警備・防災のトップ企業である総合警備保障株式会社が、創立30周年記念事業として計画した「綜警センタービル」で、首都圏の警備情報全般の指令センターである。業務の性格上、設計に課せられた条件は、「大災害が発生したときにこそ、フルに機能が発揮できるものでなければならない」という厳しいものであった。

大地震からコンピュータ機能を守るためには、建物自体を免震構造にしておくことが望ましいが、スケジュールの関係で、免震構造とすることは断念せざるを得なかった。これに代わる方法として十分な安全率を見込んだ本体構造に免震床を組み込むこととした。停電時の自家発電装置（CVCF）、万一の大豪雨に備えての防潮堤の設置等々、高機能を装備した24時間フル稼働の本格的インテリジェントビルである。また、省エネにも配慮した床下空調方式をはじめ、警備・防災に関しては最先端のシステムが採用されている。



外部ディテール

1階ラウンジ	仮眠室
エレベーター ホール	自家発電室

業務上、建物デザインには堅牢で端正なイメージを与えることが求められた。このため、外観は御影石ジェット仕上げの風格のあるデザインとした。また建物外装の汚染防止にも配慮し、窓周り部分は御影石の磨き仕上げとし、窓台部分は急傾斜をつけて埃溜りとならないよう、機能とデザインに十分配慮したディテールとなっている。窓は縦軸回転のペアガラス入りとして青梅街道からの騒音を完全に遮音している。

施工にあたっては、工事の安全性と工程管理の確実性を担保するため、地上部分と地下部分を、ダイナミックに同時施工する「逆打ち工法」が採用された。また逆打ち工法を支援する「高流動化コンクリート」を大規模に使用するなど、多くの技術的業績を残し、その後の施工技術の発展に大きく貢献した建物である。





ガードセンター

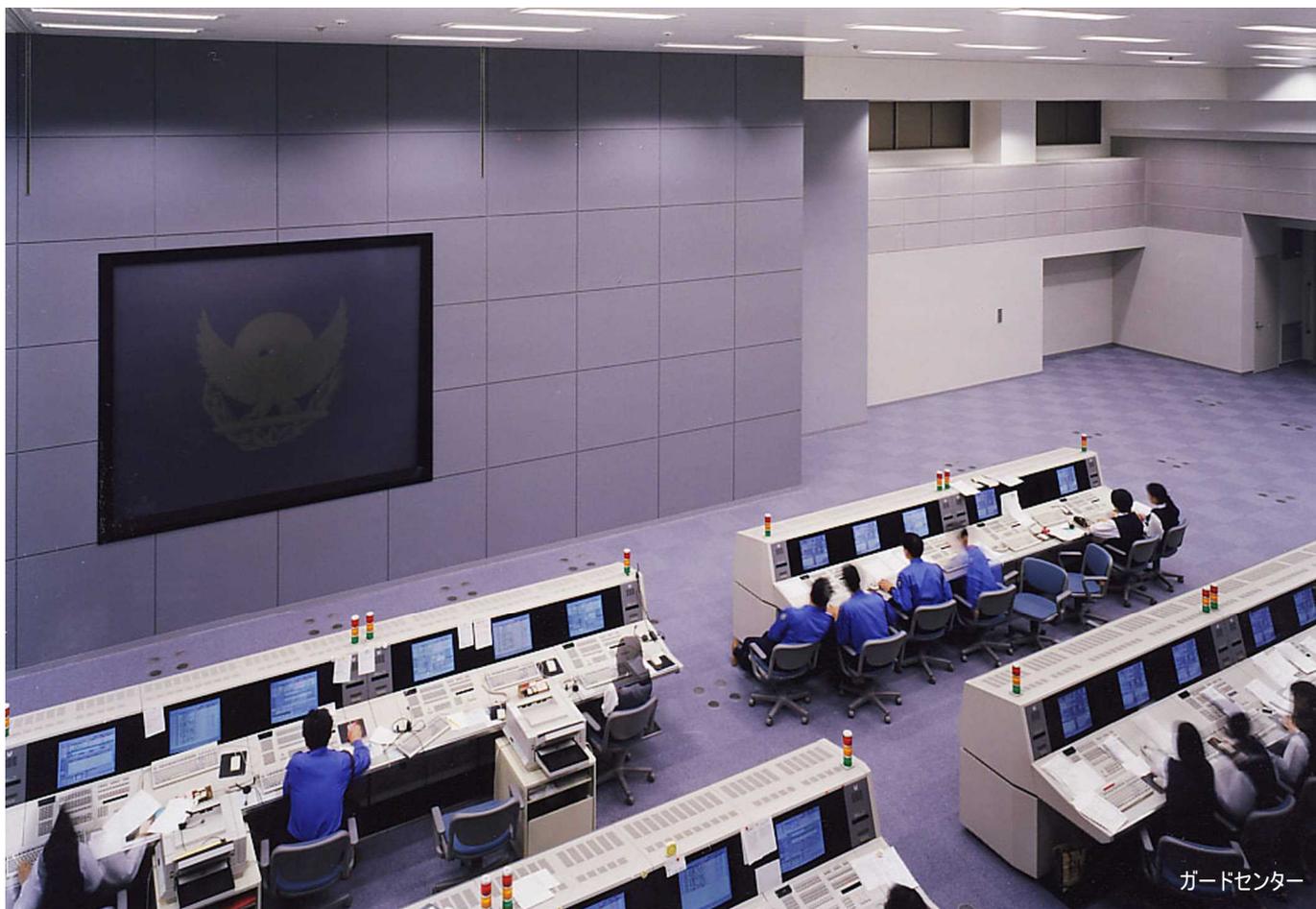
総合警備保障が誇るガードセンターである。すべてのコンピューターは、免震床の上に設置されており、大震災に遭遇しても機能を停止することがない。これらのシステムは、警視庁のガードセンターに劣らないグレードとなっており、火災・防犯・設備機器管理等の幅広い管理業務情報が瞬時に受信され、対応策の指令が的確に発信される。センター正面に設置されている巨大スクリーンは、当時わが国には2基しかなかったもののうちの1基である。左写真の上部ガラス部分は、見学者用ブースである。

ガードセンター機能を陰で支えるバックには様々なものがある。ガードセンターに受発信されたすべての情報は、ガードセンター情報室のコンピューターで管理されている。

24 時間体制で稼動するため、地階には設備の整った仮眠室が男女別に設けられている。また不慮の停電事故に対処するため、大型蓄電器と自家発電機が設置されており、瞬時の対応が確実にできるよう、万全な設備と体制が整っている。



ガードセンター制御室



ガードセンター



オーナー邸ポーチ



オーナー邸外部



オーナー邸和室



オーナー邸玄関ホール



オーナー邸エントランスホール

最上階には、130年の伝統あるオーナーの住宅が設けられているが、外部からは目に付かないよう計画されている。オーナー住宅の四周には十分な奥行きのあるルーフバルコニーを巡らせ、ご趣味の和風庭園や温室などが計画されている。また建物本体と居宅部分とは、動線・設備系統共にそれぞれが全く独立したものとなっている。青梅街道から玄関までのアプローチ部分は、2階分の公開性のある外部吹き抜け空間とし地域環境の改善への配慮がされている。

住宅部分のエントランスホールは、6m以上の天井高さのあるダイナミックな空間となっている。外部の公開空地から差し込む高窓からの自然光が、空間を一層引き立たせている。住宅内部のインテリアには、解体前の旧宅で用いられていた大黒柱などを積極的に再利用して、伝統ある村田家の歴史の記録とした。

株式会社 茜 設計

敷地面積 / 1,930.98㎡
建築面積 / 1,465.07㎡
延床面積 / 5,869.94㎡

構造 / 鉄骨鉄筋コンクリート造・
階数 / 地上5階地下1階
施工 / 鹿島建設株式会社